Ⅲ

酒のない食卓

［2］ピザパ栄え、酒宴滅ぶ？
―女子大生の新しい聖餐とは―

PROFILE
武庫川女子大学生活環境学部
情報メディア学科 教授
藤本 憲一
（ふじもと けんいち）
1958年生まれ　兵庫県出身
専門分野●情報美学、メディア環境論
著書●『ポケベル少女革命』、『ポケベル・ケータイ主義！』（共編著）、『戦後日本の大衆文化』（共編著）他

次々に手が伸びて、取り合いっこが楽しいピザパ
（藤本ゼミの年末行事）
（写真は筆者提供）

五人に一人は「酒が飲めても宴席は嫌い」

「現代若者の酒と食について」お題をいただいたところ、若者たちと酒食を共にする機会がめっきり減っていることに、はたと気づいた。これって、寄る年波のせい？　いわゆるジェネレーション・ギャップ？

もちろん、ひんぱんに酒食を学生と共にする教師も胡乱だが、他大学でも「ゼミ飲み会」と称する半公式行事すら開かれなくなってきているようだ。念のため「教員抜きの飲み会が行われているか」ゼミ学生に聞いたところ、「先生抜き？　そういうの、ない！」とのこと。

では、かつて十数年くらい（？）前まで、学期や行事の節目ごと、ひんぱんに行われていた飲み会は、いずこへ消えたのか？

さっそく女子大生が盛り上がる場面、ハレの機会を聞いてみたところ、一に「ライブ」（コンサート）、二に「旅行」、三四がなくて五に「グルメ・おしゃべり」といったところ。はなから飲酒のランクは低い。

そもそも酒宴の意味を考えてほしい。比較的短時間（三〇分～二時間）かつ日周期単位で、仕事のストレスをつかのま忘れ、いわば少量多頻回の幸福を得られることこそ、酒食の魅力である。女子大生には「仕事のストレスvs酒宴」という、日周期単位の「ストレスvsアンチ・ストレッサー」概念対が欠けている。

ストレスはあっても、より長周期で発散されているもよう。より没我的で全身的な多幸感を感じ取れるのはライブや旅行だし、もっと小さなストレスなら、スマホいじりやカフェお茶、おしゃべりで発散……、酒宴の出番があまりない。

裏付けを求めて、本学三年生（大多数が二一歳）七七人に、アンケートを取った（ここでいう宴席とは、外食だけでなく、家庭内の飲酒機会も含む）。

A項
- 酒が飲める85・7％
- 酒が飲めない14・3％

B項
- 宴席が好き67・5％
- 宴席が嫌い32・5％

BGMは、パーティソングをパソコンからYoutubeでエンドレス再生

ん？　数が合わない！　酒が飲める、イコール、宴席好きじゃないってことか？　以下、A項×B項のクロス類の内訳。

1類
- 酒が飲めて、宴席が好き64・9％

2類
- 酒が飲めないけど、宴席が好き2・6％

3類
- 酒が飲めるけど、宴席が嫌い20・8％

4類
- 酒が飲めず、宴席が嫌い11・7％

1類と4類は酒の許容度が好き嫌いに直結しているので、わかる。2類も「アタシはお酒飲めないけど、みんなで盛り上がる場は好き」ということだろう。問題は、五人に一人の高率でいる「酒が飲めるけど、宴席が嫌い」3類。彼女らの心理は、謎である。

安くて手軽で、盛り上がるピザパ

一つヒントになるのが、酒宴の衰亡と比例して、頻度の増加するピザパ（ピザパーティ）だろう。ここでのピザは「電話一本でお届け」「来店すれば一枚オマケ」とTVCMで競い合う宅配ピザチェーンの商品であり、本場イタリア料理というより、アメリカンな廉価品である。持ち寄り・テイクアウトという中食（なかしょく）の範疇に入る。大学のゼミ室で、買い出しや出前で大きな丸いピザを真ん中にすえ、揚げ物、乾き物、袋菓子などを周縁に広げてパーティが始まるや、めいめいピザのひと切れを紙皿にとり、コーラなどリットルサイズのソフトドリンクを紙コップに注ぎあって、シェアするスタイル。何よりワリカンにすると一人頭500円で成立する、抜群のコスパ（安くてお腹がふくれ、テンションも上がって一石三丁）が、学生にウケており、ことあるごとに開かれる。

デートや合コンじゃあるまいし、同性のクラスメイトやおじさん教師となら、ピザパがピッタシ！　それでいて、場の盛り上がりは、宴席に引けを取らぬどころか、好きなBGMを流せる点もあって、アラ不思議！　宴席より会話は賑やなほど。ピザは、彼女らにとって、「安いのに特別感もある」ハレがましい魔法の円盤。「酒を飲む必要もない」ほど魅力的な社交メディアなのだ。

去年、今年とわがゼミの忘年会も、ピザパだった。昼時は3年生、夕方は4年生のピザパにつきあうこちらの身にも、なってくれ！　50代後半のおじさんにとって、宅配ピザは一日二回も楽しめる、ハレのごちそうとはいえないんだからね。

ゼミ学生たちに、「昼間もピザだから、夕方は寿司パーティなんて、どう？　たこやきパーティでもいいけど」と猫撫で声で提案したところ、スマホ片手にいろいろ検索や議論の結果、「ピザパと同程度に盛り上がるためには数倍の予算や手間がかかるから、センセイが補填してくれるならいいけど」とのこと。断腸の思いで当方は、その日、二度目の苦いピザのひと切れを呑み下したのであった。

はたして、ピザパの魅力とは？　とろけるチーズ？　わいわい取り合いっこ、シェアする愉しみ？　少なくとも、女子大生にとって聖者の血肉たる聖餐は、ワインとパンでなく、コーラとピザとなりつつあるようだ。

食文化を楽しむ一冊

vesta

2017年5月1日発行
(2、5、8、11月の各月1日発行) 第106号
ISSN 0918-0214

2017 SPRING
NO.106

特集

酒と食

vesta 食文化を楽しむ一冊 2017 SPRING NO.106 特集 酒と食 公益財団法人 味の素食の文化センター

vesta

vesta (食文化誌 ヴェスタ) 第106号 (2017春) 2017年5月1日発行
定価 771円 本体714円 送料110円

編集・発行
公益財団法人 味の素食の文化センター
〒108-0074
東京都港区高輪3-13-65
味の素グループ高輪研修センター内
TEL 03-5488-7318
FAX 03-3445-7965
ホームページ http://www.syokubunka.or.jp
発行人：伊藤 雅俊
編集企画委員：髙田公理・中澤弥子・太田心平
編集人：津布久孝子

販売
一般社団法人 農山漁村文化協会
〒107-8668
東京都港区赤坂7-6-1
TEL 03-3585-1141
FAX 03-3585-3668
振替 00120-3-144478
ホームページ
http://www.ruralnet.or.jp/

雑誌 07905-5
4910079050577
00714